

ご利用になる前に必ずお読みください

このPDFファイルの内容についてのご質問・お問い合わせは株式会社アスキー・メディアワークスでは一切お受けできません。ご自身の責任においてご利用ください。



この作品は、クリエイティブ・コモンズの表示-非営利-継承 2.1 日本ライセンスの下でライセンスされています。この使用許諾条件を見るには、
<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/>をチェックするか、クリエイティブ・コモンズに郵便にてお問い合わせください。住所は：171 Second Street, Suite 300, San Francisco, California 94105, USA です。

このファイルをクリエイティブ・コモンズの表示-非営利-継承 2.1 日本ライセンスに基づいて利用する際には、下記クレジットを必ず作品や配布物に表示する必要があります。

クレジット：

- 文/あわしろいくや、水野源、村田信人 (Ubuntu Japanese Team)
- 写真/岡田清孝
- デザイン/シオズミタロウ
- 初出/株式会社アスキー・メディアワークス「Ubuntu Magazine Japan vol.03」
(<http://ubuntu.asciimw.jp/>) 2010年2月23日発行

Tester #1



あわしろいくや

第3回 4万円台ノートでHD動画を再生する

写真の「乃木坂春香の秘密 ぴゅあれつつあふ」DVD1巻は自分で購入したもので、購入特典イベントに行ってきました。生能登真美子さんと生植田佳奈さんを堪能することができましたが、実は締切前だったことはここだけの「秘密推奨!うるとLOVE」(EDテーマ曲)でお願いします。

無線LANの動作を確認する

前号で無線LANが正しく動作しないと書いたが、変なIPアドレスを拾っている原因は、「Network Manager」の設定がアドホックモードになっていたからであった。

もちろん自分で設定した覚えはない。これをインフラストラクチャモードに変更したが、接続はできなかった。ただ、USB無線LANアダプタがブランクスの「GW-USMicro」だとアクセスポイントが見えるが、「GW-US300Mini-X」だと見えなかった。以前はUbuntu 9.04だと問題なかったが、別マシンにインストールした「萌え☆OS」[暫定版] (9.04ベース) の同じドライバを使った無線LANでもやはり見えなかった。というところは、アクセスポイントなど、ドライバ以外の問題も考えられる。

地デジなどいろいろなHD動画を再生する

DVD以外にもいろいろな形式の動画を再生することにした。ロ

ードテストという趣旨からは若干外れるが、その前提として地デジを例に動画について解説しておく。説明を簡略化するために若干正確さに欠ける部分があることはあらかじめお断りしておく。

日本で採用されている地デジ(地上デジタルテレビジョン放送)の方式では、1チャンネル分の周波数を13のセグメントに分け、うち1セグメントがいわゆる「ワンセグ」に割り当てられ、あとの12セグメントをハイビジョン用に割り当てている。ハイビジョンはHD (High Definitionの略) ともいわれ、解像度は1440×1080ドットである(ただし、放送局によっては1920×1080ドットで放送しているところもあるようだ。また、このサイズを一般にフルHDと呼ぶことが多い)。

ハイビジョンで使用する動画のエンコード方式はMPEG2である。音声はMPEG2 AACである。ワンセグでは動画がH.264、音声は同じくMPEG2 AACであり、このほか文字情報なども付加してMPEG2 TSという

コンテンツ(ファイルフォーマットのことで放送している。「TS」や「TSファイル」というと、これのことを指すと思ってい。日本ではB-CASという仕組みを利用して暗号化されているため(暗号化方式はMUL-TI2)、これを解除(復号)しないと再生することができない。MPEG2 TSは(もちろん日本では復号した上で)「VLCメディアプレイヤー」やWindows 7標準の「Windows Media Player 12」で再生できる。

自分で録画したTSファイル(とあるアニメ)をVLCで再生させた。このディスプレイの解像度は1366×768ドットであり、地デジは前述のとおり1440×1080ドットである。ということは、若干縮小されて再生されることになるが、まあ誤差の範囲だろう。ネットワーク越しであったが、再生自体は特に問題なくできた。MPEG2であれば、このPCのスペックでも特に問題なく再生できるというところだろう。DVDを再生した際にときどき音が飛んだりしていたが、そのような症状は見られなかった。DVDドライブからの読み込みで何かあるのだろうか。

H.264でエンコードされたHD動画

H.264でエンコードしたHD動画(1920×1080)はさすがに手持ちのものはないので「Big Buck Bunny」をダウンロードした(図A)。これはクリエイ

HP ProBook 4515s/CT

●日本HP ●<http://h50146.www5.hp.com/>
(この仕様のモデルは販売終了)

SPEC

CPU	AMD Sempron SI-42 (2.1GHz)
チップセット	RS780MS+SB700
メモリ	1GB
グラフィック	Radeon HD 3200 (オンボード)
ディスプレイ	15.6インチワイド (1366×768ドット)
HDD	WDC WD1600BEVT-6 (160GB)
DVDドライブ	HL-DT-ST GT20L (LightScribe対応)
有線LAN	Marvell Yukon
無線LAN	Broadcom BCM4312 802.11b/g
サイズ・重量	372×250×32mm、約2.4kg



この機種はUbuntuをサポートしていないため、インストールすることにより、メーカーのサポートが受けられなくなることがあります。Ubuntuのインストールは自己責任にて実行してください。



Right



Left

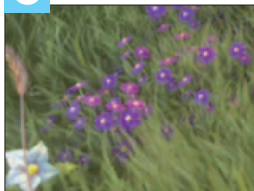


Front



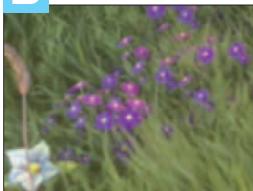
■8月末まで行われていた10周年記念キャンペーンではなんと3万9900円という破格値で販売されていた。デザインもスタイリッシュ

C 720p



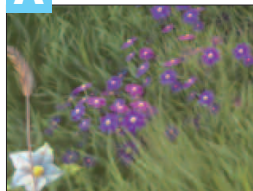
■フルHDとSDサイズの
の間。このPCでは
これが再生できる最
高画質だろう。

B SD画質



■SD、いわゆる480p
の画質。かなり健闘
しているが、やはりば
やける。

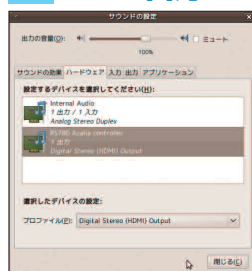
A フルHD画質



■これがフルHD画質
だが、このPCでは縮
小して表示している
のであまりキレイに見
えない。

フルHDのアニメーション映画 『Big Buck BUNNY』

D HDMI出力できそうだが



■HDMIのサウンド機能は
認識されているようだ
が、今回は残念ながら再
生できなかった。

ココを拡大!

© Blender Foundation !
www.bigbuckbunny.org



Ubuntuでこの動画再生支援
を使いたい場合は、NVIDIA
のグラフィック内蔵チップセット
あるいはビデオカードで「VDP

U」を使用するのが一番手軽だ。
プレイヤーもUbuntu 9.10の
「mplayer」であれば対応して
いる（VLCは非対応）。AMD
でも「RADEON HD 4xxx」以降、
あるいはチップセットの785G
以降で環境を整えれば使用で
きる。このノートPCはRS780
ということで、使用できない。使
用できたとしても、設定に大変手
間がかかる。

実はチップセットにはH・26
4とVC1（WMVのことだと思
っている）の再生支援機能がある。
これを使うとCPUに依存せずに
再生できるのだが、そのためには
ドライバとアプリケーションでの対
応が必要で、現状はどちらもない
すなわち、すべてCPUでデコー
ドしていることになる。Wind
ows用のドライバでは対応してい
るはずだが、アプリケーションはよ
くわからない。というのも、筆者は
あまりWindowsでは動画再生
をしないし、するとしてもVLC
を使用するので、動画再生支援を
使う機会があまりない。『Wind
VD』や『PowerDVD』はもち
ろん、新しめの『Windows Media
Player』では対応しているはずで
ある。

ティブ・コモンズで配布されてい
る映画である。とはいえ長さは10
分程度だ。H・264でHDとい
うことは、今現在もつとも重い
（再生にCPUパワーが必要な）動
画で、これが再生できればどのよ
うな動画でも再生できるというこ
とになるのだが、ときどき引つ
かり（いわゆる処理落ち）、残念な
がら快適に再生できるとは言い難
い状況だった。H・264はMPEG
2よりもキレイでファイルサイ
ズも小さくなるが、エンコードや
デコードに時間がかかるので、さ
もありなんというところだ。

とではないが。

ただし、先にも書いたとおりSDサ
イズでも十分にキレイなので、ど
の程度必要なのかは疑問がある
もちろん、解像度が多くて困るこ
とはないが。

H・264でエンコード されたやや大きめの動画

HDとSDの中間を取り、12
80×720（図C）のものでも
試してみた。特に問題なく再生で
きた。ディスプレイの解像度を考
えても、これがベストであろう。
だし、先にも書いたとおりSDサ
イズでも十分にキレイなので、ど
の程度必要なのかは疑問がある
もちろん、解像度が多くて困るこ
とはないが。

H・264でエンコード されたSD動画

Big Buck BUNNYはSD（Stan
dard Definition）サイズ（854×
480）でも配布されているので、
これを再生してみた（図B）。さ
すがこのぐらいだと問題なく再生
できる。全画面に拡大して表示さ
せても、汚いということは特にな
かった。詳細に比較すればHD動
画との違いがわかるのであろうが、
ちよつと再生されたぐらいではわ
からなかった。これはH・264
というコーデックの特性だろう。

了だ。次回をお楽しみに。

このモデルは
今回で終わり
この機種のレビューは今回で終
了だ。次回をお楽しみに。

解像度ではHDとそれほど違
いがなさそうに見えるが、ピクセ
ル数で比較すると倍以上の差があ
る。HDでは再生できなかった理
由はこのへんにありそうだ。

無線LANの
動作を確認する
このPCのスピーカーは標準品
としてはいいと思うが、やはり音
が軽いのは否めない。ヘッドフォ
ン端子があるので、ここに安物
（でも一応ソニー製）のヘッドフォ
ンを接続してみたが、わりとい
音だった。『Banshee』などイ
コライザ付きの音楽再生ソフトを
使用するなら、これでもいいかも
しれない。アンプ付きのスピーカ
ーであれば、さらによくなるだろ
う。たまにヘッドフォン端子に接続
してもスピーカーの音が出たま
まという事態に遭遇することもある
が、これがなかったのは特筆すべき
ことである。

HDでも、AMDのプロ
ライエタリなドライバをインストー
ルすれば使用可能になるはずだが、
今回は再生できなかった（図D）。
ただ、Windowsで試しても一
緒だったの、ディスプレイ内蔵
スピーカーの問題だろう。もつ
と、出力できたとしても本体のス
ピーカーの方がずっといい音が出
るだろう。

Tester #2



水野 源

第1回 江戸っ子の気合いでレトロドライブを動かす

タワー型マシンなんて置く場所ねえよ！と主張しているにもかかわらず、デスク脇にノートPCのタワーが構築されかかっているのは悪の組織の陰謀か？

で、次は色んなノートのCPUで目玉焼きを焼いてみるとかいうのはどうでしょう？え、だめ？

粋なCULVノートと私

毎月のように新しいノートを買っている、当然ですが欲しい！と思える製品はどんどん少なくなっています。ここ1年でフルHDディスプレイの大型ノートからネットブックまで一通り遊び倒したところ、「新しいノートが欲しい！でも欲しいノートがない！」という頭の悪いジレンマに陥ってしまいました。買わなくていいじゃん、というのは正しい理屈なのですが、そこはほら、ロマンというやつです。

さて、CPUパワーが常時「ガンガンいこうぜ」な筆者としては、Atomネットブックはパワー不足でおもしろくない……。かといって大型ノートは持ち運べないし、っていうか2台もいらないだろJK。ストレスを感じないだけのパワーを持ちつつモバイルも可能でかつ今までのノートとはちよつと違う趣向の、面白いマシンはないものか？

そんな贅沢を考えていた筆者の目にとまったのが、「Vostro V13」。最近流行りのCULVノートに分類される本機は、ネットブックのような割り切ったスペックではなく、CPUも液晶サイズもあくまでノートPC。それでいて低消費電力、薄型軽量という、筆者のニーズをびったり満たす、江戸っ子好みの粋でいなせなノートPCだったのです。

例によってBTOでカスタマイズが出来るデルマシンですが、筆者は「Core 2 Solo SU3500」搭載パッケージの、キーボードのみを英語に変更して購入しました。シングルコアとはいえインテルCore 2搭載。Atomネットブックのような「待たされる感」はありません。キーボードはデスクトップなみの19ミリピッチを採用していることもあり、ネットブックのような窮屈さはありません。ストロークこそ少し浅い感じがするものの、安価なノートにありがちな「たわむ」感じもなく、打鍵感是非常に良好です。

筐体は最大厚19・7ミリのアルミボディ。左右の側面の角は面取

りが施してあり、実際よりも薄く感じます。もともとUSBやeSATAといったコネクタ類がすべて背面に装備されているのは、この面取りのせいかもしれないと考え、一長一短かもしれません。重量は1・59キロと決して軽いわけではないのですが、この薄型デザインのおかげで持ち歩きが苦にならない気がします。もちろん1日持ち歩くと、やっぱり気のせいであることを痛感しますが。

さっそくUbuntuを入れてみる

まず工場出荷状態のHDDをまるごとバックアップします。ノートを購入したら内蔵HDDから起動する前に、CDやUSBメモリから起動して複製を作ってしまうのがコツ。気の短い江戸っ子はバックアップなどせずHDDをまるごと交換してしまうのですが、今回はボディの分解の仕方が解らなかったのもので妥協しました。ときには妥協も必要です。

バックアップが完了したら、さっそくコアアを入れてみましょう。もちろん前号の付録CDからインストールします、っていうかみんなしろ。今回はブリーンストールのナントカセブンをはっきり削除して、Ubuntuをインストールしました。筆者はそれほどHDDを使わないほうですが、今回は豪勢に320GBの未使用領域があること

Dell Vostro U13

●デル ●<http://www.dell.co.jp/>

直販価格 6万9980円～

SPEC

型番	インテル Core 2 Solo SU3500 (1.4GHz)
チップセット	インテル GS45 Express
メモリ	DDR2 2GB
グラフィック	インテルGMA 4500MHD
ディスプレイ	13.3インチ(1366×768ドット)
HDD	320GB
有線LAN	1000BASE-T
無線LAN	IEEE802.11b/g
Bluetooth	Ver.2.1
カードスロット	5-in-1 カードリーダ、34 mm ExpressCard
サイズ・重量	330×230×16.5～19.7mm、1.59kg(6セルバッテリー装着時)
駆動時間	約4時間30分



この機種はUbuntuをサポートしていないため、インストールすることにより、メーカーのサポートが受けられなくなることがあります。Ubuntuのインストールは自己責任にて実行してください。



■デザインもシックなビジネスノート。CPUがCeleronのエントリーパッケージはなんと5万2980円からある。



Right
Back
Front



■2GBのMicroSDカードと比べると、威圧感すら与える大きさのSyjetカートリッジ（1.5GB）。残念ながらSyQuest社はもう存在しないので新品メディアは入手できないかも。

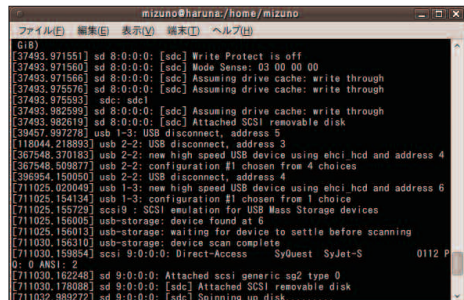
太古のドライブ



初めは無線LANは動かない

■有線LANで接続してから [システム] - [システム管理] - [ハードウェアドライバ] で「Broadcom STA無線LANドライバ」を導入する。

SCSIエミュレーション



■dmesgを見るとUSBマストレージ機器用SCSIエミュレーションモードで動いていることがわかる。きちんと製品名も認識されている。

USB-SCSI変換ケーブル



U2SCX

- ラトックシステム
- <http://www.ratocsystems.com/>
- 価格 7700円

■SCSI機器をUSBで接続できる便利ケーブル。ターミネーション電源供給可能。USBマストレージモードとSCSIエミュレーションモードに対応（Windows）。

とになりますが、この部分は後でDebianとLucidを入れるために取っておこうと思います。インストールが完了して最初にやるべきことは、プロプライエタリドライバのインストールです。本機ではBroadcomの無線LANを動作させるために、プロプライエタリなドライバが必要になります。当然インストール完了まで無線は動作しませんが、インストール時には有線LANを使いましょう。なお無線LANデバイスの有効・無効は「Fn」＋「F7」キーで切り替えることができます。端末から

「\$tail -f /var/log/messages」などとしながら切り替えてみると、無線LANアダプタが接続・切断されている様子がよくわかります。グラフィックはインテルの「4500 MHD」ですが、特に設定をする必要もなく、1366×768ドットの解像度と3Dアクセラレーションが有効になります。「glx test」(ベンチマークソフト)のスコアは2200程度ですが、ビジネスノートであることを考えれば必要十分でしょう。Compizも十分実用的な速度で動作します。サウンド機能も内蔵されており、特別な設定を行わなくても音声の再生ができます。「Fn」＋「[F4/F5]」キーでの音量調整も正しく動作しているので、サウンドに関して手間をかける必要はないでしょう。ただし本体内部のスピーカーは「とりあえず鳴る」というレベルなので、ホビー用途に

はヘッドフォンの使用などを考慮したほうがよいかもしれません。また本機には130万画素のWebカメラが搭載されていますが、こちらも特に設定を行わなくても、「Cheese」から動作させることができます。意外とはまりがちなサスペンドやハイバネーションからの復帰にも問題は見られず、さすがに海外ではUbuntuモデルが販売されている機種だけあると感心します。正直なところインストールするだけでほぼ完璧に動作してしまい、記事にすることがなかったりします。唯一気になるのは、タッチパッドが「PS/2 Generic Mouse」として認識されてしまい、Synapticsドライバがロードされていないことでしょうか。そのためタッチパッド特有の、タプでのクリックやマルチタッチでのスクロールの設定が現状できていません。とりあえずLaunchpadに同じ現象が報告されていたので、V13でも起こる旨をコメントしておきました。このあたりはLucidで直るんじゃないかなと期待しています。

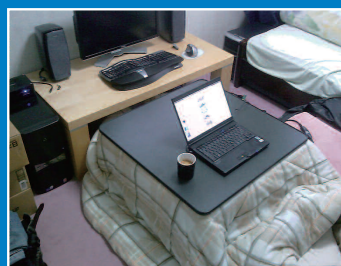
古代のSCSIデバイスを つないでみた

はるか昔、大容量外付けストレージデバイスが乱立した時代がありました。MOをはじめ、Zip、PD、Jaz、ORB、REV、Sparkといった多くのデバイスが現れましたが、CDRが使い捨てできる値段になるほど普及すると、

たちまち忘れ去られていったようです。今回はそんなレガシーなデバイス、リムーバブルハードディスクである「Syquest SyJet」(サイジェット)をUbuntuで使ってみようと思います。当時としては大容量の1.5GB(誤植にあらず)、標準価格7万9800円。接続はもちろんSCSI-2。接続にはラトックシステムのUSB-ウルトラSCSI変換ケーブル「U2SCX」を使用しました。U2SCXのWebページにはFedoraでの動作実績があるだけ書いてありましたが、Ubuntuでも当然使用できるであろうと考えての調達です。ケーブルでSyjetドライブとV13を接続してみると、スピンアップが行われます。ドライブにSyjetカートリッジを挿入すると、自動マウントがされました。ためにdiskでパーティションを作りext3のファイルシステムを作成してみたところ、問題なくデータの読み書きを行うことができました。もちろんアクセスは非常に低速ですが……。そしてアンマウントするとゲロゲーという音を立てて、メディアのイジェクトまでされちゃいます。いやまあ、替えのメディアなんて持ってないんですけれど！

そんなわけで、全国1億2000万人中のほんのちよびりのSyjetユーザーのみなさん、いよいよ我々のターンですよ！え、俺？もう押入れにしまっちゃいましたか何か？

Tester #3



村田 信人

第1回 展示品のFMV-BIBLOで
快適環境を構築だ！

めったに雪が降らない名古屋でも自分にとって寒いものは寒いんです。喫茶店に出かけて原稿を書くのは行き帰りが寒いのでおっくうだと思えてきたどうしようもないダメ人間が、自宅で快適環境を整えようと熟考した結果、こんな機種を購入した。レッツ自宅こたつ喫茶！

ロードテストに 自腹で復帰したよ！

ということでロードテスト復帰の今回はなんと自腹で参戦。購入したのは富士通の14.1型モバイル『FMV-BIBLO MG/075 (夏モデル)』。購入の決め手は、低電圧版ではないパワフルなCPU、重量に対して大きな画面だ(図A、B)。もちろん、展示処分品で安かったというのも大きな要因だ。

筆者は、メイン機となるデスクトップと、『EeePC 901』しかマシンを持っていなかった(正直に言うと、『ML115』や『Finoo 330』はあるのだけだ)。あまり外で作業をすることがないので、ネットブックで十分だったわけだが、最近、Ubuntu オフラインミートینگやオープンソースカンファレンスに出かけることもあり、ネットブックではない、ちゃんとした性能のマシンが欲しかったのだ。となると、今流行りのCULVノートが候補に上がり、前回のVersaProで低電圧版のCore 2 Duoを試用したの

だが、仮想マシンを立ち上げたりすると、もうちょっと性能のいいマシンが必要だと感じた。

暖房器具をこたつに頼っているので、デスクトップを操作するとき、こたつから出ないといけないという理由で購入を急いでいたというのもある。これで、1日中こたつの中でぬくぬく過ごしていられるね！(※筆者は会社勤めをしています)。

当然ですが、 9.10を入れてみる

この機種は今までのBIOS画面ではなく、EFI対応(図D)。

Ubuntuをインストールするためには、MacのようにEFI領域を作らないと失敗するのかな、わくわく。と期待していたら、通常のインストール手順であつさりインストールできてしまつて拍子抜けした。ちなみに、東芝製SSD『SSD-STE64B』に換装し、Ubuntuはそちらにインストールした。WindowsがブリーインストールされているHDDは、そのまま保管してある。

4GBのメモリが積まれているので、標準でPAEカーネルがインストールされた(※通常のカーネルでは、3.3GB程度のメモリまでしか認識されない。PAEカーネルでは、32bit版を使用している、4GBを超えるメモリが使えるようになる)。

購入前に、無線LANカードの型番(『Intel WiFiLink 5300』)などを調べておいたので、キーボード上のホットキーを「Player」モードにしたときにキーコードが取れないという以外は特に問題なく動作している。ホットキーも「Application」モードにしておけば、「[Fn] + [F8]」のようにイベントが取得できるので、「キーボード・ショートカット」の設定で自由に割り当てられる(図E、F)。「[Fn] + [F4]」でタッチパッドのオンオフを切り替えられるのだが、これもUbuntu上で動作する(同時に輝度も変化してしまう副作用あり)。

Ubuntuの バッテリーの持ちは？

ブリーインストールされているWindowsはメーカ独自の省電力ツールが用意されていることが多いので、Ubuntuを使うとバッテリーの持ちが悪くなると思われることが多いが、この機種に関してはUbuntuでもかなり頑張ってくれる。まず、BIOSのファン制御で、「通常」と「サイレント」が選べるので、「サイレント」にしておけば、アイドル時はファンが停止し、非常に静かに動作してくれ

FMV-BIBLO MG/075 <'09年夏モデル>

●富士通 ●<http://www.fmwORLD.net/>

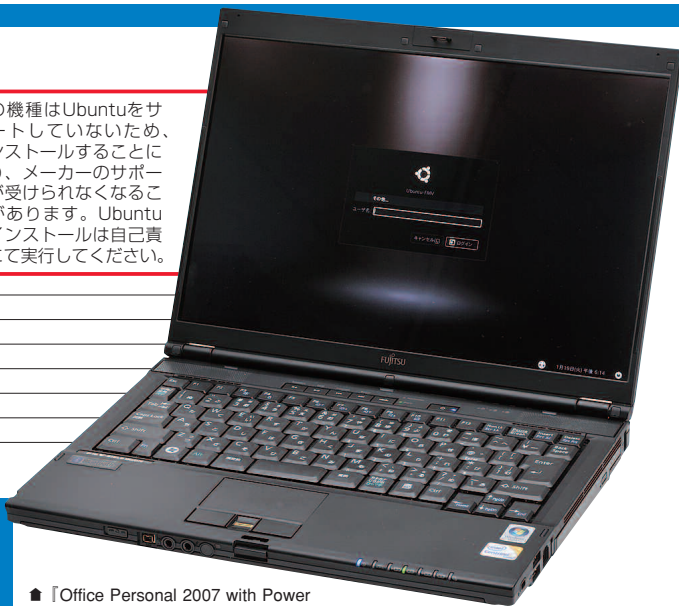
実売価格 20万円前後 (販売終了モデル。市中在庫限り)

SPEC

型番	インテル Core 2 Duo P8700 (2.53GHz)
チップセット	インテルGM45 Express
メモリ	DDR3 4GB (最大4GB)
グラフィック	インテル GMA4500 MHD
ディスプレイ	14.1インチ(1280×800ドット)
HDD	320GB
DVDドライブ	スーパーマールチドライブ
有線LAN	1000BASE-T
無線LAN	IEEE802.11a/b/g/n
Bluetooth	Ver.2.1対応
カードスロット	PCカード(Type II)、SD/MS/xDカード対応スロット
サイズ・重量	316×235×24.3~34mm・1.79kg



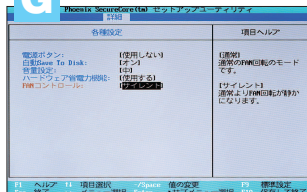
この機種はUbuntuをサポートしていないため、インストールすることにより、メーカーのサポートが受けられなくなることがあります。Ubuntuのインストールは自己責任にて実行してください。



■『Office Personal 2007 with Power Point 2007(SP1)』も付いているビジネス向きのモデルだ。

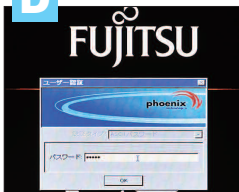


G ファンはサイレントに



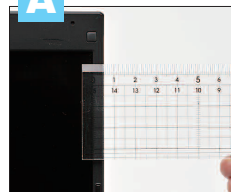
■静か＆省電力なので BIOSで「FANコントロール」を「サイレント」に変更しておくのはオススメです。

D EFI対応なのだ



■マウスだって使えちゃう。が、設定変更には通常のBIOSと同じキー操作が必要。どう得するのかよくわからない…。

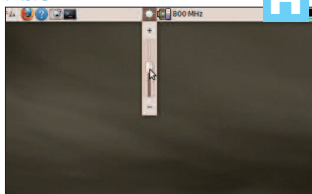
A ベゼルが狭くてカッコいい



■液晶のベゼルが広いと安物っぽく見えてしまうが、このモデルのベゼルはとっても狭くカッコいいので満足だ。

アプレットで輝度調整

■ホットキーでの輝度調整がおざっぱで気になる、という場合はパネルに「明るさの調整」アプレットを追加してみよう。



H ホットキーの動作

■[Mode] ボタンで「Player」モードにしてみようというキーコードが得られない。「Application」モードはOK。

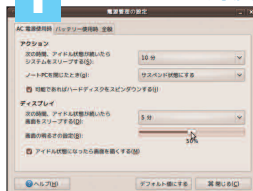


E 180度まで開くのだ!

■どんな姿勢でも適切な角度に調整。スタバの隣の席で原稿を書いているが、後ろから直射日光が当たらない限り反射は気にならない。



I デフォルトの輝度を設定



■起動時の液晶の明るさは「電源の管理」メニューで設定するのだ。輝度を調整してもリセットされちゃう、という人はここを確認しよう。

F ショートカットの設定



■キーボード上にあるホットキーは、「XF86Launch1」から「XF86Launch4」までを設定できる。好みのアプリなどに割り当てよう。

C ダストキャッチャー



■筆者が購入したのは展示品なので、取り外すとホコリがごっそり引っかかって、思わぬ効果を確認できた。

るし、ファンに電力を取られる心配がない(図G)。また、無線オン・オフスイッチで、オフにしておけば無線LANやBluetoothへの電力供給が遮断されるし、アイドル時はCPUのクロックが2.53GHzから800MHzまで落ちるので、このように原稿を書いているだけであれば、6時間ほど使える。

Windowsに搭載されているメカ製ツールでは、液晶のリフレッシュレートを40Hzに落とす機能があるが、Ubuntuの「 gnome-display-properties」や「xrandr」では60Hzしか選択できない。なんとかすれば40Hzが使えるようになると思うが、そんなこととするよりも輝度を1段階落とした方が手取り早く省電力できると筆者は思う。

ホットキーで液晶の輝度を調整すると、5段階にしか設定できなかった(本来は8段階、そんなときはパネルに「明るさ調整アプレット」を追加して使おう(図H)。ちなみに再起動すると液晶の輝度がリセットされてしまうとお悩みのそのあなた! 起動時の液晶の明るさは「システム」・「設定」・「電源の管理」で設定するんです。さらに筆者は、電源についてどうかがバッテリーで動作してようが同じ輝度で使うので、「バッテリー使用時」タブの「バックライトの輝度を低くする」のチェックは外してるぞ(図I)。

筆者はEeePC 901でマルチタッチ対応のタッチパッドを使っているから、2本の指を使ってタ

ッチパッドを操作するとスクロールできる機能が非常に気に入っている。当然、今回の機種を購入するときは、マルチタッチ対応かどうかを調べたわけだが、「Windows上でピンチズームが使えます」という記載があったので、マルチタッチ対応だと確信していた。ところが「システム」・「設定」・「マウス」のタッチパッドの項目で設定できる「二指でのスクロール」を選択しても、反応しない。

マルチタッチ対応
タッチパッドじゃない!?

よくよく調べていくと端末で、xinput list -shortと実行して、表示される中からタッチパッドの項目を探す。たいていは、「Alps」「Synaptic」「Elantech」などの文字列が含まれている。次にそのデバイスの能力を調べするために、以下を実行する。

xinput list-props "デバイス名" ; grep Capabilities

筆者の環境では以下のように実行した。

xinput list-props "SynPS/2 Synaptics TouchPad" ; grep Capabilities

すると以下のように返ってきた。

Synaptics Capabilities (266): 1, 1, 1, 0, 0

「1」だと対応、「0」だと非対応だ。何に対応しているのかというと、1つ目から順に「左ボタン」(タッチパッド下のボタンのことだと思われる)、「中ボタン」(専用

ボタンを持つていない場合は、左右ボタンを同時押しした場合のことだと思われる)、「右ボタン」(2本の指の認識)、「3本の指の認識」だ。「0」になっいて対応していないのは「2本の指の認識」。「3本の指の認識」だって、え? ちょっと待って。マルチタッチ対応じゃないってこと? ナンテコッタイ。

Windows Vista上でSynaptics社製のドライバが入っている状態では、ピンチズームや2本指スワイプが使えているのに加えて、3本指で触るとそれらの動作が止まるので、ハードウェアは3本指まで認識するが、Ubuntuのドライバがまだ対応できていないだけじゃないかと淡い期待を抱いている。